



Title	平成二十六年 度 退職教員略歴・主要業績
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 2015, 55, p. 175-202
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55452
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

平成二十六年 退職教員略歴・主要業績

かみくら 上倉 つねゆき 庸敬 教授 芸術学講座（美学）

くどうまゆみ 工藤眞由美 教授 日本語学講座（日本語学）

たいら 平 まさゆき 雅行 教授 日本史講座（日本史学）

もりおか 森岡 ゆういち 裕一 教授 西洋文学・語学講座（英米文学）

上倉庸敬教授 略歴・主要業績

略 歴

- 昭和24年 9 月 7 日 神奈川県横浜市に生まれる
- 昭和43年 3 月 神奈川県私立栄光学園高等学校卒業
- 昭和44年 4 月 京都大学文学部入学
- 昭和48年 3 月 同学部哲学科（美学美術史学専攻）卒業
- 昭和50年 3 月 同大学大学院文学研究科修士課程（美学美術史学専攻）修了
- 昭和53年 3 月 同研究科博士課程（美学美術史学専攻）単位取得・退学
- 昭和53年 4 月 京都大学文学部（美学美術史学第一講座）助手
- 昭和55年 3 月 上記退職
- 昭和55年 4 月 神戸学院女子短期大学専任講師
- 昭和60年 4 月 同助教授
- 昭和62年 4 月 大阪樟蔭女子大学助教授（学芸学部）
- 平成 3 年 4 月 大阪大学助教授（文学部美学科美学講座）
- 平成 7 年 4 月 大阪大学文学部の編成替えにより人文学科芸術学講座助教授
- 平成 8 年 4 月 大阪大学教授（文学部人文学科芸術学講座）
- 平成11年 4 月 大阪大学大学院文学研究科（文化表現論講座）に配置換え
- 平成19年 3 月 博士（文学）の学位を大阪大学より授与さる
- 平成27年 3 月 大阪大学を定年退職（予定）

学外での主要な活動

- 美学会 ときに幹事、委員に任ぜらる
- 日本映像学会 ときに幹事、理事に任ぜらる
- 日本演劇学会 いっとき監事に任ぜらる
- 映画研究誌『FB』（1993年創刊）同人、事務局長
- 京都映画祭（京都市補助金により実行委員会が主催、第1回1996年より第8回2013年まで）企画委員
- 大阪アジア映画祭（大阪市補助金により大阪映像文化振興事業実行委員会が主催、第0回2004年より第10回2015年まで）実行委員長

主要論文など

- 2014年 6 月「生きる形さまざま—イーストウッド『グラン・トリノ』と、少しだけ小津—」（『わたしたちは二十二世紀を望めるのか—明日のないその日のために—』片岡・安藤編、

紀伊国屋書店刊、電子書籍に所収)

- 2014年1月「夢のまた夢—映画が見つけた大阪」(『季論21』2014年冬号)
- 2012年4月「ヨーロッパの愛に息づく自己発現—『アベラールとエロイーズ』の場合—」
(『グローバル世紀への挑戦 文明再生の智慧』片岡・幸泉・安藤編、文理閣刊に所収)
- 2009年10月『フランス美学 涙の谷を越えて』(単著)創文社刊
- 2008年4月「たとえば小津安二郎、また井上ひさし—フランスの美学と日本—」(『創文』507号、pp.14-17とわずかな分量だが当人には大切なもの、創文社刊に所収)
- 2007年3月『フランス美学のエスプリ』学位請求論文、大阪大学に提出
- 2006年3月「ドラマと音楽—谷慶子シナリオ『タイ・ブレーカー』の舞台上演を例に一」
(「ドラマ空間における音楽に対する観客反応の実証的な研究」科研基盤研究(C)(1)、研究成果報告書[代表:上倉庸敬]に所収)
- 2005年3月「日本に建築architectureはない」(『美学研究』第3集、大阪大学美学研究室編に所収)
- 2004年3月「サド公爵の自然観」(「三つの世紀末〈ロマン主義・世紀末・ポストモダン〉—転換期の芸術と芸術の哲学—」科研基盤研究(A)(1)研究成果報告書[代表:神林恒道]に所収)
- 2004年3月「日本映画批評史覚書 滝沢一について」(「芸術学の日本近代—その歴史と展望—」科研基盤研究(B)(1)研究成果報告書[代表:神林恒道]に所収)
- 2004年3月「私小説と日本の芸術概念—平野謙『藝術と実生活』をめぐる—」(「日本における『芸術』概念の誕生と死」科研基盤研究(A)(2)研究成果報告書[代表:上倉庸敬]に所収)
- 2002年2月「木下杢太郎『百花譜』ノート」(『神林恒道教授退官記念論集 美と芸術のシュンボシオン』大阪大学美学研究会編、勁草書房刊に所収)
- 2001年6月「日本映画における生と死」(『生と死の文化史 懷徳堂ライブラリー 4』懷徳堂記念会編、和泉書院刊に所収)
- 1999年4月「デカダンス—ただ生きるがために生きるという生き方について—」(『芸術における近代—美的コンセンサスは得られるか— 叢書/転換期のフィロソフィー第2巻』(神林恒道・太田喬夫編、ミネルヴァ書房刊に所収)
- 1999年4月「現代の文学理論」(『芸術理論の現在 —モダニズムから—』藤枝晃雄・谷川渥編、東信堂刊に所収)
- 大阪大学での授業科目
美学講義「ロゴスとポイエーシス」他、美学講義「美学史」他、美学・芸術学演習「美学外国語文献講読」、芸術学講義「映画序説」他、芸術学講義「京都の撮影所と東京」他、ほかに「論文作成演習」など、主として文学研究科。文学部専門基礎「芸術の始まり」、基礎ゼミ「芸術批評をめぐる、たとえば小林秀雄」など、主として全学教育。

工藤眞由美教授 略歴・主要業績

略 歴

1949年12月14日	愛媛県宇和島市に生まれる
1968年 3 月	愛媛県立宇和島南高等学校卒業
1972年 3 月	津田塾大学学芸学部英文学科卒業
1972年 4 月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程（言語学専門課程）入学
1974年 3 月	同 上 修了
1974年 4 月	東京大学大学院人文科学研究科博士課程（言語学専門課程）入学
1979年 3 月	同 上 単位修得退学
1986年 6 月	横浜国立大学教育学部 講師
1988年 4 月	横浜国立大学教育学部 助教授
1997年10月	横浜国立大学教育人間科学部 助教授
1997年 5 月	チュービンゲン大学日本文化研究所 客員教授（～1997年 8 月）
1998年 4 月	大阪大学文学部（日本語学講座）教授
1999年 3 月	大阪大学より博士（文学）の学位を取得
1999年 4 月	大阪大学大学院文学研究科（日本語学講座）教授
2005年 4 月	独立行政法人国立国語研究所監事（～2009年 9 月）
2007年 8 月	大学教育実践センター長（～2012年 3 月）
2015年 3 月	大阪大学を定年退職

受 賞

2014年10月	新村出賞（第33回）
----------	------------

学会関係役員等

国語学会（現在日本語学会）評議員	1997年 6 月～現在
日本語文法学会評議員	2000年12月～2012年11月
日本言語学会評議員	2005年 5 月～現在
日本学会議連携会員	2006年 8 月～2008年 9 月、 2011年10月～現在
人間文化研究機構国文学研究資料館運営会議委員	2006年 4 月～2010年 3 月

人間文化研究機構国立国語研究所運営会議委員	2009年10月～現在
大学日本語教員養成課程研究協議会代表理事	1998年4月～2000年3月
大阪大学後援会（大阪大学出版会）理事	2011年12月～現在
『日本語大事典』（朝倉書店）編集委員	2000年6月～2014年9月

主要業績（年代順）

1976

工藤真由美「待遇表現における若い世代の共通語化と方言化」『日本方言研究会第23回発表
原稿集』（『日本列島方言叢書』22：260－268. ゆまに書房に所収）

1978

工藤真由美「依頼表現の発達」『国語と国文学』（東京大学国語国文学学会）56－1：46－64.
至文堂

工藤真由美「各地の否定形式—その体系と分布—」『柴田武教授定年退官記念 言語学演
習 '78』9－23. 東京大学言語学研究室

1981

工藤真由美「訳語との競合」飛田良文（編著）『英米外来語の世界』129－164. 南雲堂

1982

工藤真由美「シテイル形式の意味記述」『武蔵大学人文学会雑誌』13－4：51－88.

工藤真由美「シテイル形式の意味のあり方」『日本語学』1－2：38－47. 明治書院

1983

工藤真由美「宇和島方言のアスペクト」『国文学解釈と鑑賞』48－6：101－119. 至文堂

1985

工藤真由美「ノ、コトの使い分けと動詞の種類」『国文学解釈と鑑賞』50－3：45－52. 至文堂

1986

工藤真由美「アスペクトについてのおぼえがき」『国文学解釈と鑑賞』51－1：39－48. 至文堂

1987

工藤真由美「現代日本語のアスペクトについて」『教育国語』91：2－21. むぎ書房

1989

工藤真由美「現代日本語のパーフェクトをめぐって」『ことばの科学3』53－118. むぎ書房

工藤真由美「現代日本語の従属文のテンスとアスペクト」『横浜国立大学人文紀要 第二類
語学・文学』36：1－24.

1990

工藤眞由美「現代日本語の受動文」『ことばの科学 4』47-102. むぎ書房

1991

工藤眞由美「過去の出来事の表現—テンス・アスペクト体系とその機能—」『国語研究』9：47-57. 横浜国立大学国語国文学会

1992

工藤眞由美「宇和島方言の2つの否定形式」『国文学解釈と鑑賞』57-7：134-120. 至文堂

工藤眞由美「現代日本語の時間の従属複文」『横浜国立大学人文紀要 第二類 語学・文学』39：169-192.

1993

工藤眞由美「小説の地の文のテンポラリティー」『ことばの科学 6』19-65. むぎ書房

1994

工藤眞由美「蓮華寺では下宿を兼ねた」『国文学解釈と鑑賞』59-7：60-66. 至文堂

1995

工藤眞由美『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房

工藤眞由美「意味とテキスト」『国文学解釈と鑑賞』60-1：90-96. 至文堂

1996

工藤眞由美「2つのアスペクト体系の比較対照と一般アスペクト論」『言語学林1995-1996』559-570. 三省堂

工藤眞由美「「～ノデハナイ」の意味と機能」『横浜国立大学人文紀要 第二類 語学・文学』43：1-19.

工藤眞由美「否定のアスペクト・テンス体系とディスコース」『ことばの科学 7』81-136. むぎ書房

1997

工藤眞由美「否定文とディスコース—「～ノデハナイ」と「～ワケデハナイ」—」『ことばの科学 8』66-102. むぎ書房

工藤眞由美「反事実性の表現をめぐる」『横浜国立大学人文紀要 第二類 語学・文学』44：51-65.

工藤眞由美「多文化教育と日本語教育」『海外子女教育』36：9-14. 横浜国立大学附属中学校

1998

工藤眞由美「非動詞的述語のテンス」『国文学解釈と鑑賞』63-1：66-81. 至文堂

- 工藤眞由美「西日本諸方言と一般アспект論」『月刊言語』27-7:34-40. 大修館書店
- 工藤眞由美「テキスト言語学」『国文学解釈と鑑賞』63-7:36-43. 至文堂
- 工藤眞由美「西日本諸方言のアспект体系の記述をめぐって—中間報告と今後の課題—」
『日本語研究』18: 東京都立大学国語学研究室

1999

- 工藤眞由美『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房
- 工藤眞由美「西日本諸方言におけるアспект対立の動態」『阪大日本語研究』11: 1-17.
大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 工藤眞由美「時間的限界点のタイプ—広義アспект的把握の観点から—」『日本語学』18
-9: 15-23. 明治書院
- 工藤眞由美「否定と呼応する副詞をめぐって—実態調査から—」『大阪大学文学部紀要』
39: 69-107.
- 工藤眞由美「現代日本語の文法的否定形式と語彙的否定形式」『現代日本語研究』6: 1-
22. 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 工藤眞由美「青森県五所川原方言の動詞のアспектとテンス」『国語学研究』38: 102-93.
東北大学文学部国語学研究室
- 工藤眞由美・木幡智美・玉井裕子「児童生徒に対する日本語教育のための語彙調査—教科書
の語彙との比較調査から—」『国文学解釈と鑑賞』64-1: 106-114. 至文堂

2000

- 工藤眞由美「否定の表現」『日本語の文法2 時・否定と取り立て』93-150. 岩波書店
- 工藤眞由美「アспект表現の地域差—西日本諸方言を中心に—」『国文学解釈と鑑賞』65
-1: 34-44. 至文堂
- 工藤眞由美「アспект・テンス体系と極性」『現代日本語研究』7: 1-11. 大阪大学大
学院文学研究科日本語学講座
- 工藤眞由美「「彼は風邪くらいでは休まないよ」—否定のスコープと焦点—」『月刊言語』29
-11: 38-44. 大修館書店
- 工藤眞由美「八丈方言のアспект・テンス・ムード」『阪大日本語研究』12: 1-20. 大
阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 工藤眞由美「方言のムードについてのおぼえがき」『待兼山論叢（日本学篇）』34: 1-14.
大阪大学文学会
- 工藤眞由美「日本語学のフォーカス: アспект・テンス」中村明（編）『別冊国文学 現
代日本語必携』136-139. 学燈社

2001

- 工藤眞由美「アスペクト体系の生成と進化—西日本諸方言を中心に—」『ことばの科学10』117-173. むぎ書房
- 工藤眞由美「述語の意味類型とアスペクト・テンス・ムード」『月刊言語』30-13: 40-47. 大修館書店

2002

- 工藤眞由美「現象と本質—方言の文法と標準語の文法—」『日本語文法』2-2: 46-61. くろしお出版
- 工藤眞由美「諸方言におけるアスペクト・テンス体系の動態—存在動詞と時間表現—」『国語論究10』120-144. 明治書院
- 工藤眞由美「日本語の文の成分」『現代日本語講座5 文法』: 101-119. 明治書院
- 工藤眞由美「日本語学と日本語教育との関係」水谷修・李徳奉（編）『総合的日本語教育を求めて』: 82-98. 国書刊行会
- 工藤眞由美「文法化とアスペクト・テンス」『シリーズ言語科学5 日本語学と言語教育』71-92. 東京大学出版会

2003

- 工藤眞由美・清水由美「アスペクトと敬語—岐阜県高山方言の場合—」『阪大日本語研究』15: 1-12. 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座

2004

- 工藤眞由美（編著）『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系—標準語研究を超えて—』ひつじ書房
- 工藤眞由美「ムードとテンス・アスペクトの相関性をめぐって」『阪大日本語研究』16: 1-17. 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 工藤眞由美「言語学・日本語学・日本語教育—時間表現を中心に—」『日本語言文化研究』1: 2-14. 大連理工大学出版会（中国）
- 工藤眞由美「現代語のテンス・アスペクト」『朝倉日本語講座6 文法II』172-192. 朝倉書店

2005

- 八亀裕美・佐藤里美・工藤眞由美「宮城県登米郡中田町方言の述語のパラダイム—方言のアスペクト・テンス・ムード体系記述の試み—」『日本語の研究』1-1: 51-64. 武蔵野書院
- 工藤眞由美・佐藤里美・八亀裕美「体験的過去をめぐって—宮城県登米郡中田町方言の述語構造—」『阪大日本語研究』17: 1-25. 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 工藤眞由美「グローバルジャパンにおける日本語学のあり方」『日語日文学研究（日本語学・

日本語教育学篇』53-1:1-11. 韓国日語日文学会

工藤真由美「「ヨウダ」「ラシイ」とテンス」『日語研究』3:1-24. 商務印書館（中国）

2006

工藤真由美「アスペクト・テンス」小林隆（編）『シリーズ方言学2 方言の文法』93-136. 岩波書店

工藤真由美「話し手の感情・評価と過去の出来事の表現」土岐哲先生還暦記念論文集編集委員会（編）『日本語の教育から研究へ』177-186. くろしお出版

工藤真由美「文の対象的内容・モダリティー・テンポラリティーの相関性をめぐって—「らしい」と「ようだ」—」『ことばの科学11』139-182. むぎ書房

工藤真由美「日本語のさまざまなアスペクト体系が提起するもの」『日本語文法』6-2:3-19. くろしお出版

工藤真由美「グローバルな視点からの日本語研究」『東方語言文化論叢』4:9-22. 華南理工大学出版社（中国）

2007

工藤真由美（編著）『日本語形容詞の文法—標準語研究を超えて』ひつじ書房

工藤真由美「複数の日本語という視点から捉えるアスペクト」『月刊言語』36-9:32-39. 大修館書店

工藤真由美・高江洲頼子・八亀裕美「首里方言のアスペクト・テンス・エヴィデンシャルティー」『大阪大学大学院研究紀要』47:151-183.

津田葵・真田信治・工藤真由美（編）『言語接触と混交』大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」報告書6

工藤真由美・仲間恵子・八亀裕美「与論方言動詞のアスペクト・テンス・エヴィデンシャルティー」『国語と国文学』（東京大学国語国文学学会）84-3:53-67. 至文堂

2008

工藤真由美・八亀裕美『複数の日本語—方言からはじめる言語学』講談社

工藤真由美「言語接触と文法的変容—日本語の多様性をめぐって—」『日本文化研究』28:5-20. 東アジア日本学会

工藤真由美「認識のモダリティーと情報構造」北京大学日本語文化系・北京大学日本文化研究所編『日本語文化研究』8:13-20. 学苑出版社（中国）

2009

工藤真由美・森幸一・山東功・李吉鎔・中東靖恵『ブラジル日系・沖縄系移民社会における言語接触』ひつじ書房

工藤眞由美 (2009) 「奥田靖雄先生の言語学—80歳の誕生日によせて—」『ことばの科学12』
9-15. むぎ書房

2010

工藤眞由美「方言接触から見た存在動詞とアスペクト」上野善道 (監修)『日本語研究の12章』
71-83. 明治書院

工藤眞由美「現代日本語の否定とアスペクト・テンス」加藤泰彦・吉村あき子・今仁生美 (編)
『否定と言語理論』308-330. 開拓社

工藤眞由美・白岩広行「ボリビアの沖縄系移民社会における日本語の実態」『日本語学』29
-6: 4-16. 明治書院

工藤眞由美「愛媛県宇和島方言の可能形式—努力による実現を明示する形式を中心に—」『国
語語彙史の研究』29: 275-291. 和泉書院

工藤眞由美「方言の多様性から見た日本語」『人間文化』11: 5-18. 人間文化研究機構
白岩広行・森田耕平・王子田笑子・工藤眞由美「ボリビアのオキナワ移住地における言語接
触」『阪大日本語研究』22: 11-42. 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座

2011

工藤眞由美「愛媛県宇和島方言の時間の捉え方—標準語の文法を相対化する視点」呉人恵 (編)
『日本の危機言語 言語・方言の多様性と独自性』171-185. 北海道大学出版会

白岩広行・森田耕平・齋藤美穂・朴秀娟・森幸一・工藤眞由美「ブラジルとボリビアにおけ
る沖縄系エスニックコミュニティと日本語」『阪大日本語研究』23: 1-31. 大阪大学大
学院文学研究科日本語学講座

Junji, Koizumi and Mayumi, Kudo (eds.) *Migration and Identities: Conflict and the New
Horizon. Conflict Studies in the Humanities Special Issue*. Osaka University Global COE
Program: A Research Base for Conflict Studies in the Humanities.

2012

工藤眞由美「時間的限定性について」『日本研究』51: 4-70. 韓国外国語大学日本研究所

工藤眞由美「時間的限定性という観点が提起するもの」影山太郎 (編)『属性叙述の世界』
143-176. くろしお出版

2013

工藤眞由美「テンスとムード—反事実仮想を中心に—」『日中言語対照研究論集』15: 1-
18. 白帝社

工藤眞由美「モーダルな意味とテンポラルな意味」『日語学習与研究』1-8. 中国日語教
学研究会会刊

朴秀娟・森幸一・工藤眞由美「沖縄系エスニックコミュニティにおける日本語と沖縄方言の継承意識—ブラジル及びボリビアの言語生活調査から—」『阪大日本語研究』25：1－29.

大阪大学大学院文学研究科日本語学講座

工藤眞由美「新日本語学者列伝〈奥田靖雄〉」『日本語学』33－2：72－78. 明治書院

工藤眞由美「動詞と日本語の多様性」『日中言語研究と日本語教育』6：15－24. 好文出版

2014

工藤眞由美『現代日本語ムード・テンス・アспект論』ひつじ書房

朴秀娟・森幸一・工藤眞由美「沖縄系2世における言語生活史と日本語保持に関わる要因」『阪大日本語研究』26：1－32. 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座

工藤眞由美「海を渡った日本語」『日本教育』438：26－27. 公益社団法人日本教育会

2015

工藤眞由美・森幸一（編著）『日系民社会における言語接触のダイナミズム—ブラジル・ボリビアにおける子供移民と沖縄系移民—』大阪大学出版会（印刷中）

平 雅行教授 研究業績等一覧

■履歴

I 学歴

1970年 3 月	大阪府立三国ヶ丘高校卒業
1970年 4 月	京都大学文学部入学
1975年 3 月	京都大学文学部史学科を卒業
1975年 4 月	京都大学文学部聴講生（～ 76年 3 月）
1976年 4 月	京都大学文学研究科博士前期課程（国史学専攻）入学
1978年 3 月	同 修了
1978年 4 月	京都大学文学研究科博士後期課程（国史学専攻）入学
1981年 3 月	同 修了
1993年11月	博士（文学）号を取得（大阪大学）

II 職歴

1981年 4 月	日本学術振興会奨励研究員（～ 82年 3 月）
1982年 4 月	京都大学研修員（～ 84年 3 月）
1984年 4 月	京都橘女子大学文学部助教授（～ 86年 3 月）
1986年 4 月	関西大学文学部助教授（～ 89年 3 月）
1989年 4 月	大阪大学文学部助教授（～ 96年 1 月）
1996年 1 月	大阪大学文学部教授（～ 99年 4 月）
1999年 4 月	大阪大学大学院文学研究科教授に配置換え（～至現在）

III 受賞

2003年12月	大阪大学共通教育賞
2006年11月	大阪大学共通教育賞

■業績一覧

I 著書

(A) 単著

1. 『日本中世の社会と仏教』

塙書房 1992年

2. 『親鸞とその時代』 法蔵館 2001年
3. 『鎌倉幕府の顕密寺社政策についての基礎的研究』
平成10年度～13年度科学研究費補助金基盤研究C(2) 研究成果報告書 2002年
4. 『真宗史』 一、二 (信心学通信教育テキスト・DVD) 本願寺維持財団 2004年
5. 『中世寺院の暴力とその正当化』
平成14年度～16年度科学研究費補助金基盤研究C(2) 研究成果報告書 2005年
6. 『歴史のなかに見る親鸞』 法蔵館 2011年
7. 『「嘉禄の法難」講演録』 念仏行脚連絡協議会 2011年

(B) 編著

1. 『黒田俊雄著作集』 全8巻 (編集代表、第2巻編集・解説担当) 法蔵館 1994～95年
2. 『日本歴史大事典』 全4巻 (編集委員一仏教史) 小学館 2000～01年
3. 『中世の人物 京・鎌倉の時代編 第三巻 公武権力の変容と仏教界』 清文堂 2014年

(C) 共著

1. 『中学歴史資料年表』 吉野教育図書 1980年
2. 『天台宗寺門派実相院 古文書目録』 京都府教育委員会 1982年
3. 『部落史史料選集 第一巻 古代・中世篇』 部落問題研究所出版部 1988年
4. 『日本史B』 実教出版株式会社 2004・2008・2014年
5. 『日本史B 指導資料』 実教出版株式会社 2004・2008・2014年

(D) 共編

1. 『歴史の中の和泉 ―古代から近世へ―』 (小山靖憲と共編) 和泉書院 1995年
2. 『莊園に生きる人々 ―『政基公旅引付』の世界―』 (小山靖憲と共編)
和泉書院 1995年
3. 『周縁文化と身分制』 (脇田晴子、マーチン・コルカットと共編) 思文閣出版 2005年

II 学術論文

1. 「法然の思想構造とその歴史的位罫 ―中世的異端の成立―」
『日本史研究』198号 1979年
2. 「中世的異端の歴史的意義 ―異端教学と莊園制支配イデオロギー―」
『史林』63巻3号 1980年

- (のちに『親鸞大系 歴史篇』第1巻、法蔵館、1989年に再録)
3. 「末法・末代観の歴史的意義 ―浄土教中心史観批判―」
『仏教史学研究』25巻2号 1983年
(のちに高木豊編『論集日本仏教史4 鎌倉時代』雄山閣、1988年に再録)
 4. 「中世宗教の社会的展開」
日本史研究会・歴史学研究会編『講座日本歴史3 中世1』 東京大学出版会 1984年
(のちに『展望日本歴史9 中世社会の成立』東京堂出版、2001年に再録)
 5. 「建永の法難について」
岸俊男教授退官記念会編『日本政治社会史研究 下』 塙書房 1985年
(のちに『親鸞大系 歴史篇』第3巻、法蔵館、1988年に再録)
 6. 「中世仏教と社会・国家」 『日本史研究』295号 1987年
 7. 「解脱房貞慶と悪人正機説」
横田健一先生古稀記念会編『文化史論叢 下』 創元社 1987年
 8. 「安居院聖覚と嘉禄の法難」
中世寺院史研究会編『中世寺院史の研究 上』 法蔵館 1988年
 9. 「井上光貞氏の浄土教研究についての覚書」 『新しい歴史学のために』192号 1988年
 10. 「旧仏教と女性」津田秀夫先生古稀記念編『封建社会と近代』 同朋舎 1989年
(のちに総合女性史研究会編『日本女性史論集 5 女性と宗教』吉川弘文館、1998年に再録)
 11. 「女人往生論の歴史的評価をめぐって ―阿部泰郎氏の批判に答える―」
『仏教史学研究』32巻2号 1989年
 12. 「中世仏教と女性」
女性史総合研究会編『日本女性生活史 2 中世』 東京大学出版会 1990年
 13. 「中世宗教史研究の課題」『日本中世の社会と仏教』 塙書房 1992年
 14. 「鎌倉仏教論」『岩波講座日本通史8 中世2』 岩波書店 1994年
 15. 「黒田俊雄氏と顕密体制論」 『歴史科学』138号 1994年
(のちに翻訳。Taira Masayuki, 'Kuroda Toshio and Kenmitsu Taisei Theory', *Japanese Journal of Religious Studies*, Vol. 23, Numbers 3-4, 1996)
 16. 「顕密体制論について」『黒田俊雄著作集 第2巻 顕密体制論』 法蔵館 1995年
 17. 「鎌倉幕府の宗教政策について」
小松和彦・都出比呂志編『日本古代の葬制と社会関係の基礎的研究』
平成6年度科学研究費補助金(一般A)研究成果報告書 1995年

- (のちに『日本史学年次別論文集 中世2 1995年』学術文献刊行会、1997年に再録)
18. 「殺生禁断の歴史的展開」
 大山喬平教授退官記念会編『日本社会の史的構造 古代・中世』 思文閣出版 1997年
 19. 「仏教思想史研究と顕密体制論 ―末木文美士氏の批判に応える―」
 『日本史研究』422号 1997年
 20. 「定豪と鎌倉幕府」
 大阪大学文学部日本史研究室編『古代中世の社会と国家』 清文堂 1998年
 21. 「将軍九条頼経時代の鎌倉の山門僧」
 藺田香融編『日本仏教の史的展開』 塙書房 1999年
 22. 「鎌倉山門派の成立と展開」 『大阪大学大学院文学研究科紀要』40巻 2000年
 23. 「日本の肉食慣行と肉食禁忌」
 脇田晴子・アンヌ ブッシイ編『アイデンティティ・周縁・媒介』 吉川弘文館 2000年
 (のちに翻訳。Taira Masayuki, 《Tabous et alimentation carnée dans l'histoire du Japon》, *Identités, marges, médiations*, École française d'Extrême-Orient, 2001)
 24. 「鎌倉における顕密仏教の展開」 伊藤唯真編『日本仏教の形成と展開』 法蔵館 2002年
 25. 「鎌倉幕府と延暦寺」 中尾堯編『中世の寺院体制と社会』 吉川弘文館 2002年
 26. 「青蓮院の門跡相論と鎌倉幕府」
 河音能平・福田榮次郎編『延暦寺と中世社会』 法蔵館 2004年
 27. 「神仏と中世文化」 歴史学研究会・日本史研究会編
 『日本史講座 第4巻 中世社会の構造』 東京大学出版会 2004年
 28. 「中世寺院の暴力とその正当化」 『九州史学』140号 2005年
 (のちに翻訳。Taira Masayuki, 《La légitimation de la violence dans le bouddhisme au Moyen Âge》, *Légitimités, légitimations*, École française d'Extrême-Orient, 2006)
 29. 「殺生禁断と殺生罪業観」
 脇田晴子・コルカット・平雅行編『周縁文化と身分制』 思文閣出版 2005年
 30. 「若き日の親鸞」 『真宗教学研究』26号 2005年
 31. 「善鸞義絶状と偽作説」 『史敏』3号 2006年
 (のちに『日本史学年次別論文集 中世2 2006年』学術文献刊行会、2008年に再録)
 32. 「鎌倉幕府の将軍祈禱に関する一史料」 『大阪大学大学院文学研究科紀要』47巻 2007年
 33. 「親鸞の配流と奏状」 早島有毅編『親鸞門流の世界』 法蔵館 2008年
 34. 「鎌倉寺門派の成立と展開」 『大阪大学大学院文学研究科紀要』49巻 2009年
 35. 「出家と女性」 岡佳子編『日本の宗教とジェンダーに関する国際総合研究』

- 平成18～20年度科学研究補助金基盤研究(B) 研究成果報告書 I 本文編 2009年
36. 「鎌倉中期における鎌倉真言派の僧侶 一良瑜・光宝・実賢」
『待兼山論叢』史学篇43号 2010年
 37. 「中世仏教における呪術性と合理性」 『国立歴史民俗博物館研究報告』157集 2010年
〔共同研究〕中・近世における生業と技術・呪術信仰)
 38. 「建永の法難と『教行信証』後序」 『真宗教学研究』31号 2010年
 39. 「中世宗教の成立と社会」
高埜利彦・安田次郎編『新体系日本史15 宗教社会史』 山川出版社 2012年
 40. 「建永の法難と九条兼実 一法然伝の検討を通して」
今井雅晴先生古稀記念論文集編集委員会編『中世文化と浄土真宗』思文閣出版 2012年
 41. 「中世成立期の王権と宗教 一上島亨『日本中世社会の形成と王権』の書評にかえて」
『日本史研究』601号 2012年
 42. 「出家入道と中世社会」 『大阪大学大学院文学研究科紀要』53巻 2013年
 43. 「専修念仏の弾圧をめぐる一思想弾圧否定論の破綻一」
『仏教史学研究』56巻1号 2013年
 44. 「善光寺と女人罪業観」
鈴木則子編『歴史における周縁と共生 一女性・穢れ・衛生』 思文閣出版 2014年
 45. 「末法思想と澆季観」
安富信哉博士古稀記念論集『仏教的伝統と人間の生』 法蔵館 2014年

Ⅲ 概説・学会動向・書評等

1. 「書評：伊藤唯真著『浄土宗の成立と展開』」 『史林』65巻1号 1982年
2. 「旧仏教の中世的展開」 『日本学』2号 1983年
3. 「1985年の歴史学界—回顧と展望— 日本中世 六」 『史学雑誌』95編5号 1986年
(のちに史学会編『日本歴史学界の回顧と展望』第7巻、山川出版社、1987年に再録)
4. 「紹介：泉澄一著『釜山窯の史的研究』」 『関西大学通信』161号 1987年
5. 「鎌倉新仏教は中世社会に浸透したか」
歴史教育者協議会編『100問100答・日本の歴史』 河出書房新社 1988年
6. 「女性と光明真言」 『日本の女性と仏教 会報』5号 1988年
7. 「専修念仏とその時代」 『史泉』69号 1989年
8. 「中世は武士の時代か? —公家・武家・寺家、三重政権の可能性?—」
『受験の日本史』16巻5号 聖文社 1989年

9. 「前近代の宗教」

- 国際歴史学会議日本国内委員会編『歴史研究の新しい波
—日本における歴史学の発達と現状Ⅶ〈1983-1987〉—』 山川出版社 1989年
(のちに翻訳。Taira Masayuki, 'Religion Before the Modern Age', The National Committee
of Japanese Historians, *Historical Studies in Japan* (Ⅶ) 〈1983-1987〉, Yamakawa
Shuppansha, 1990)
10. 「書評：松尾剛次著『鎌倉新仏教の成立』」 『史学雑誌』99編3号 1990年
11. 「専修念仏の歴史的意義」 藤本浄彦・山本正広編『法然の原風景』 四恩社 1993年
12. 「多元的価値観が基調（日本文化）」 『無限大』93号 1993年
13. 「紹介：平雅行著『日本中世の社会と仏教』」 『朝日新聞』（3月14日）1993年
14. インタビュー記事「幸福を考える—日本 上—」 『京都新聞』（5月13日）1993年
15. 「日本の女性と仏教」『異文化の交流—過去・現在・未来—』 大阪大学 1993年
16. 「紹介：『宮崎圓遵著作集』全7巻」 『日本史研究』378号 1994年
17. 「神仏の時代」朝日新聞学芸部編『中世の光景』 朝日新聞社 1994年
18. 「中世前期の信仰と宗教」「中世後期の神仏信仰」
『福井県史 通史編2 中世』 福井県 1994年
19. インタビュー記事「黒田俊雄著作集」 『中外日報』（1月26日）1995年
20. インタビュー記事「専修念仏—法然」 『山陽新聞』（1月12日）1997年
21. 「中世民衆と顕密仏教」 『中外日報』（6月16日）1998年
22. 「和泉」「摂津」井上寛司編『中世諸国一宮制の総合的研究』
平成8～10年度科学研究費基盤研究(A)(1) 研究成果報告 1999年
(のちに『中世諸国一宮制の基礎的研究』岩田書院、2000年として刊行)
23. 「日本中世の祈り」 『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』32号 1999年
24. 「ラディカルな罪と救済のドラマ」
AERA MOOK『親鸞がわかる』 朝日新聞社 1999年
25. 「同朋としての親鸞」 『同朋』50巻6号、真宗大谷派宗務所 1999年
(のちに『2004年版 真宗の生活』真宗本廟 東本願寺、2003年に再録)
26. 「中世前期の文化」『概説日本歴史』 吉川弘文館 2000年
27. インタビュー記事「増幅された文明の不安」 『朝日新聞』（12月6日）2000年
28. 「親鸞とその時代」 大谷専修学院同朋会文集『さけび』 2001年
29. 「解題」黒田俊雄『王法と仏法』 法蔵館 2001年
30. 「中世民衆と親鸞」 真宗大谷派名古屋別院『信道講座』72号 2002年

31. インタビュー記事「『鎌倉新仏教』開祖たちの『宗教改革』とは何か」
『週刊 再現日本史』74号 講談社 2002年
32. 展示批評：「学界状況と一般常識とのはざままで」 『歴博』116号 2003年
33. 「新仏教と顕密体制論」『日本仏教34の鍵』 春秋社 2003年
34. 「鎌倉仏教と顕密体制」
国立歴史民俗博物館編『中世寺院の姿とくらし』 山川出版社 2004年
35. 「はじめに 日本史講座4」村井章介と共同執筆、歴史学研究会・日本史研究会編
『日本史講座 第4巻 中世社会の構造』 東京大学出版会 2004年
36. 「親鸞の歩みとところ」上下 真宗大谷派難波別院『南御堂』518、519号 2005年
37. 「シンポジウム「中世仏教の国際環境」に寄せて」 『日本史研究』524号 2006年
38. 「法然上人とその時代」 『知恩』745、746号 2006年
39. 'Japan and attitudes towards impurity', 'Imported culture and Nationalism', 'War of gods', *Course Records "History, Manners and Customs, and interchange-Asia and Japan" in the Osaka University Short-term Student Exchange Program (OUSSEP) 2006 Fall Semester*, Graduate School of Letters Osaka University 2007年
40. 「中世民衆と親鸞聖人」 真宗大谷派難波別院『南御堂』538号 2007年
41. 「日本の古代中世における死の習俗」
江川温編『死者の葬送と記念に関する比較文明史—親族・近隣社会・国家』
(日本学術振興会科学研究費補助金プロジェクト報告、基盤研究(A)) 2007年
(*Customs surrounding Death in Japan in Ancient and Medieval Times* 同時出版)
42. 「中世史像の変化と鎌倉仏教(1)」
『じっきょう—地歴・公民科資料』65号 実教出版株式会社 2007年
43. 「中世史像の変化と鎌倉仏教(2)」
『じっきょう—地歴・公民科資料』66号 実教出版株式会社 2008年
44. 「鎌倉期随心院の史料紹介—「権少僧都成宣款状写」「静厳僧正二間初参記」—」
荒木浩編『小野随心院所蔵の文献・図像調査を基盤とする相関的・総合的研究とその展開 Vol. III』 平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究報告書 2008年
45. 「神国日本と仏国日本」『世界史を書き直す 日本史を書き直す』 和泉書院 2008年
46. 「善鸞義絶状の伝来とその偽作説」
『親鸞像の再構築』第一輯 大谷大学真宗総合研究所 2008年
47. 「興福寺奏状の歴史的背景」 真宗大谷派難波別院『南御堂』559号 2009年
(のちに『まんが 宗祖親鸞聖人 第2巻』難波別院、2009年に再録)

48. 「親鸞誕生の時代」『別冊太陽 親鸞 親鸞聖人750年大遠忌記念』 平凡社 2009年
49. 「親鸞の歩み—配流と布教—」
『信道 2008年度』 (財)真宗大谷派名護屋別院維持財団 2009年
50. 「日本の中世仏教と日本優越論」ハノイ国家大学附属人文社会科学大学東洋学部日本学
科編『日本研究論文集 社会文化史』(ベトナム語翻訳含む) 世界出版社 2010年
51. 「古代中世仏教における女人救済と女性差別—立山信仰と女性」
『石川の歴史遺産セミナー講演録「白山(第5回～8回)」』
石川県立歴史博物館 2010年
52. 「時代を生きる—法然・親鸞と今」
『朝日新聞』(夕刊、月1回1年間連載) 2010～11年
53. 「親鸞のあゆみと恵信尼」
真宗大谷派高田教区教化委員会編『御流罪八百年—親鸞の道を生きる』 2010年
54. インタビュー記事「信心の道ひたすらに」 『朝日新聞』(2月10日) 2011年
55. 「法然誕生の時代」『別冊太陽 法然』 平凡社 2011年
56. 「法然のあゆみとその教え」
『法然上人八百回忌特別展覧会 法然—生涯と美術』 京都国立博物館 2011年
57. 「専修念仏の弾圧と法然上人」『孝養父母』 浄土宗大本山百萬遍知恩寺 2011年
58. 「日本中世における寺院と武力」ハノイ国家大学附属人文社会科学大学東洋学部日本学
科編『日本研究論文集 法制と社会』(ベトナム語翻訳含む) 世界出版社 2011年
59. 「自己責任論からの脱却—鎌倉仏教の2巨人と現状」
『毎日新聞』(5月19日夕刊・6月16日) 2011年
60. 「『教行信証』後序と奏状」
大谷大学真宗総合研究所編『『教行信証』の思想』 筑摩書房 2011年
61. 「弟子などほしくない」「本当の慈悲とは」
『ABCラジオ ちょっといい話 第10集』 新風書房 2011年
62. 「親鸞の時代と仏教」 『伝道』76号 浄土真宗本願寺派伝道部 2011年
63. 「善鸞の義絶と義絶状」
大谷大学真宗総合研究所編『親鸞像の再構築』 筑摩書房 2011年
64. インタビュー記事「感受性の人 親鸞」 『毎日新聞』(「心のページ」) 2011年
65. 講演紹介記事「歴史のなかの親鸞」『読売新聞』
(1月26日夕刊。立命館大講座「日本文化の奔流」第24回講義内容として紹介) 2012年
66. 「法然・親鸞と今」 『GLOBE』68号 世界人権問題研究センター 2012年

67. 「法然・親鸞と中世民衆」
 仏教講座講義録『心のめざめ18』 長野市南長野仏教会 2012年
68. 「明恵の怒りと法然」 『伝道』 77号 浄土真宗本願寺派伝道部 2012年
69. 「法然と顕密体制」
 『仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書第38冊 浄土宗の文化と美術』 2012年
70. 「聖覚と親鸞」 『伝道』 78号 浄土真宗本願寺派伝道部 2012年
71. 「鎌倉の顕密仏教と幕府」 『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』 26号 2013年
72. 「寛喜の大飢饉と親鸞」 『伝道』 79号 浄土真宗本願寺派伝道部 2013年
73. 「「親鸞」の誕生」 『伝道』 80号 浄土真宗本願寺派伝道部 2013年
74. 「親鸞のあゆみと民衆」 真宗大谷派教学研究所編『ともしび』 732号 2013年
75. インタビュー記事：著者に会いたい「絶望の中で出会った親鸞」
 『ひとりふたり』 130号 2014年
76. 「親鸞の二人の伯父」 『伝道』 81号 浄土真宗本願寺派伝道部 2014年
77. 「親鸞のあゆみ」 大谷専修学院同朋会文集2013年度『さけび』 2014年
78. 「親鸞一時代を生きる」
 真宗大谷派『京都教区だより』 308号より毎月連載（2年間の予定） 2014年～
79. 「法然・親鸞と明恵—仏教改革の群像」
 『中世の人物 京・鎌倉の時代編 第二巻 治承～文治の内乱と鎌倉幕府の成立』
 清文堂 2014年
80. 「公武権力の変容と仏教界」
 『中世の人物 京・鎌倉の時代編 第三巻 公武権力の変容と仏教界』 清文堂 2014年
81. 「聖覚—エリート学僧の挫折」
 『中世の人物 京・鎌倉の時代編 第三巻 公武権力の変容と仏教界』 清文堂 2014年
82. 「親鸞の出家と慈円」 『伝道』 82号 浄土真宗本願寺派伝道部 2014年
83. 「時代を生きる—親鸞聖人のこころ、人々の願い」 上下
 『築地本願寺新報』 804、805号 2014年

Ⅳ 辞典類

1. 『総合仏教大辞典』 法蔵館 1987年
 ※「関東祈祷所」ほか14項目
2. 京大日本史辞典編纂会編『新編 日本史辞典』 東京創元社 1990年
 ※「末法思想」ほか6項目および付録の「仏教宗派表」

3. 角川新版『日本史辞典』角川書店 1996年
※「末法思想」ほか5項目
4. 『京都市姓氏歴史人物大辞典』角川書店 1997年
※「安楽」ほか53項目および「寺社・宗教家の歴史」中世編
5. 『岩波日本史辞典』岩波書店 1999年
※「安居院」ほか23項目
6. 『日本歴史大事典』小学館 2000～01年
※編集委員（仏教史担当）。執筆は特集項目「女人往生」「仏教と国家（中世）」
および「悪人正機説」ほか46項目
7. 『岩波仏教辞典 第二版』岩波書店 2002年
※「一向」ほか9項目
8. 『日本史文献事典』弘文堂 2003年
※「平雅行『日本中世の社会と仏教』」の1項目
9. 『日本古代史大辞典』大和書房 2006年
※巻末資料の「仏教宗派表」
10. 『宗教学文献事典』弘文堂 2007年
※「黒田俊雄『日本中世の社会と宗教』」「平雅行『日本中世の社会と仏教』」の2項目
11. 『日本女性史辞典』吉川弘文館 2008年
※「恵信尼」ほか17項目
12. 『日本思想史事典』東京堂出版 2013年
※「親鸞」の1項目

森岡裕一教授 略歴・研究業績

■履歴（略歴）

昭和44年 3 月	大阪府立高津高等学校卒業
昭和44年 4 月	大阪外国語大学英語学科入学
昭和48年 3 月	大阪外国語大学英語学科卒業
昭和48年 4 月	日商岩井(株) 入社 鉄鋼貿易輸出業務担当
昭和49年 7 月	日商岩井(株) 退社
昭和49年 7 月	(株)インターグループ入社 国際会議同時通訳、通訳養成所講師兼運営担当
昭和53年 3 月	(株)インターグループ退社
昭和53年 4 月	大阪大学大学院文学研究科（英文学専攻）博士前期（修士）課程入学
昭和55年 3 月	大阪大学大学院文学研究科（英文学専攻）博士前期（修士）課程修了
昭和55年 4 月	大阪大学文学部英文科助手に任用
昭和56年 4 月	大阪大学言語文化部助手に配置換え
昭和57年 4 月	大阪大学言語文化部講師
昭和60年 4 月	奈良女子大学文学部英語英米文学科助教授に配置換え
平成 7 年 4 月	大阪大学文学部西洋文学語学講座（アメリカ文学）助教授に配置換え
平成11年 4 月	大阪大学大学院文学研究科（アメリカ文学）助教授に配置換え
平成12年 4 月	大阪大学大学院文学研究科教授
平成18年 3 月24日	大阪大学 博士（文学）学位授与

■学会関係役員

日本文学会会員、日本アメリカ文学会会員、日本フォークナー協会会員
 日本ヘミングウェイ協会会員（運営委員2001－2013）
 日本アメリカ文学会編集委員（1999－2001）
 日本アメリカ文学会関西支部評議員（1997－）
 日本アメリカ文学会関西支部編集委員（1997－1999, 2001－2003）
 日本アメリカ文学会代議員（2002－2005, 2007－2008）
 日本アメリカ文学会関西支部副支部長（2003－2005）
 日本文学会関西支部編集委員（2009－2011）

日本英語検定協会一級面接委員（1995－）

日本学術振興会大学院教育事業プロジェクト評価委員（2006－）

■主要業績

A. 著書（単著）

1. 『飲酒／禁酒の物語学—アメリカ文学とアルコール—』（単著）、大阪大学出版会、2005.
2. 『西洋文学—理解と観賞—』（編著）、大阪大学出版会、2011.
3. 『アメリカ文化のサプリメント—多面国家のイメージと現実—』（単著）、大阪大学出版会、2014.

B. 著書（共著）

1. 森岡裕一・関西生産性本部共編著『「ビジネス・ウィーク」を読む』生産性出版、1994.
2. 森岡裕一他4名共著『イメージとしての都市』南雲堂、1996.
3. 森岡裕一他4名共著『酔いどれアメリカ文学』英宝社、1999.
4. 森岡裕一・高田賢一共編著『シャーウッド・アンダソンの文学』ミネルヴァ書房、1999.
5. 森岡裕一・大井浩二他8名共著『スモールタウン・アメリカ』英宝社、2003.
6. 森岡裕一・片淵悦久共編著『新世紀アメリカ文学史』英宝社、2004.
7. 森岡裕一・片淵悦久共編著『改定増補版 新世紀アメリカ文学史』英宝社、2007.
8. 森岡裕一・堀 恵子共編著『「依存」する英米文学』英宝社、2008.

C. 論文

1. シャーウッド・アンダソンの処女作——『ワインズバーグ・オハイオ』への道——
Osaka Literary Review No.18, 1979. (pp. 113–125)
2. The American Dream & The Grotesque —— The Novels of Nathanael West
Osaka Literary Review No.19, 1980. (pp. 128–137)
3. シャーウッド・アンダソンのアイロニー——『ワインズバーグ・オハイオ』論のために
『待兼山論叢』No.14, 1980. (pp. 3–19)
4. 紳士は金髪がお好き?! ——デイジー・フェイの毛髪に関する若干の考察——
『文学と評論』No.17, 1981. (pp. 5–14)
5. 蠱惑と幻滅——都市小説としての *The Great Gatsby*
大阪大学『言語文化研究』No.8, 1982. (pp. 33–46)
6. 箱庭と冒険——*Winesburg, Ohio*の空間構造

- 大阪大学『言語文化研究』No.10, 1984. (pp. 49-68)
7. Stranger 物語としての *Poor White*
奈良女子大学『研究年報』No.30, 1987. (pp. 19-35)
8. シャーウッド・アンダソンとストレンジャー
藤井治彦編『空間と英米文学』英宝社、1987. (pp. 223-245)
9. 1914-1945の小説
別府恵子・渡辺和子編『アメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1989. (pp. 113-142)
10. Anderson's Appeal: A Personal View
The Winesburg Eagle Vol. XV, No.2, 1989. (pp. 13-14)
(The Official Publication of the Sherwood Anderson Society)
11. アンダソンの短編——「女になった男」を中心に
『清水汎教授退官記念論文集』アポロン社、1991. (pp. 308-319)
12. Sherwood Anderson and Being A Stranger
奈良女子大学『研究年報』No.35, 1992. (pp. 25-31)
13. 生と死の両義性、および、氾濫する川——ヘミングウェイとウルフ
岩山太次郎・別府恵子編『川のアメロカ文学』南雲堂、1992. (pp. 189-202)
14. アメリカ現代小説・映画における三都物語——都市論のための予備的考察
奈良女子大学『研究年報』No.38, 1994. (pp. 87-101)
15. *In Our Time*の構造と主題
大阪大学『待兼山論叢』第29号、1995. (pp. 1-16)
16. アメリカ映画における関係性の病
『大沼雅彦・尾崎寄春両教授退官記念論集』あぼろん社、1996. (pp. 269-282)
17. Macomberの悔悛
『藤井治彦先生退官記念論文集』英宝社、1999. (pp. 791-802)
18. 「現実」に背を向けて——『ワインズバーグ・オハイオ』における〈冒険〉
『シャーウッド・アンダソンの文学』ミネルヴァ書房、1999. (pp. 97-114)
19. 『風と共に去りぬ』におけるアイリッシュ・ドラマ
『文学と女性』英宝社、2000. (pp. 231-243)
20. 暗い笑いのモダニズム——ニューオーリンズ時代のアンダソン
『アメリカ文学とニューオーリンズ』鷹書房弓プレス、2001. (pp. 98-117)
21. 『地平線のかなた』における「叔権制」
『ドラマティック・アメリカ』英宝社、2002. (pp. 205-216)

22. 崩壊する町 —— 禁酒小説とスモールタウン
『スモールタウン・アメリカ』英宝社、2003. (pp. 69-99)
23. 「エミリーへのバラ」における反復のモチーフについて
『共和国の振り子』英宝社、2003. (pp. 266-280)
24. 酔いどれアメリカ文学
『新世紀アメリカ文学史』英宝社、2007. (pp. 175-185)
25. 少女の涙 —— 禁酒小説における「共依存」とセクシュアリティ
『「依存」する英米文学』英宝社、2008. (pp. 137-155)
26. ボトルと奴隷 —— 『アンクル・トムの小屋』における支配と依存
『メディアと文学が表象するアメリカ』英宝社、2009. (pp. 56-77)
27. リグリーの怯え —— 『アンクル・トムの小屋』における男女の力学
『英米文学の可能性』英宝社、2010. (pp. 641-651)
28. 説論と強制 —— T・S・アーサーの後期禁酒小説
『異相の時空間』英宝社、2011. (pp. 57-72)
29. 口語文体／パラタクシス／イニシエーション
『西洋文学—理解と鑑賞—』大阪大学出版会、2011. (pp. 30-42)
30. 短編連作
『西洋文学—理解と鑑賞—』大阪大学出版会、2011. (pp. 94-107)
31. メルヴィル『白鯨』
『西洋文学—理解と鑑賞—』大阪大学出版会、2011. (pp. 231-244)
32. 家庭の呪縛 —— 禁酒小説における「離婚」の不在
『大庭幸男先生退職記念論文集』英宝社、2015 (予定) (pp. 97-108)

D. 翻訳

1. ウエンディ・スタイナー「アメリカ小説の多様性」(pp. 1091-1124)
『コロンビア米文学史』山口書店、1997.
2. T・S・アーサー『酒場での十夜』(アメリカ古典大衆小説コレクション No.7)
松柏社、2006.

E. エッセイ・書評・その他

1. 「20世紀初頭アメリカにおける売春」(書評)
The Browser No.18, 1983.

2. 「アメリカ映画つまみぐい」
新興出版社啓林館『啓林』No.38-42, 1987.
3. 「忘れられた日本の巨人」カーマン・ブラッカー（翻訳）
『新潮』1990. (pp. 136-140)
4. 「*Business Week*を読む」
『ザッツ・ニュービジネス』1990-1991. 不定期6号掲載.
5. 「Sherwood Anderson After Fifty Yearsに参加して」
『英語青年』研究社、1991.7.
6. *Sailing* (高等学校英語教科書オラルコミュニケーションB)
啓林館、1993.
7. 高田賢一編『たのしく読めるアメリカ文学』ミネルヴァ書房、1994.
(アンダソン、ルイス、ドス・パソス、フィツジェラルド、ミラー、ウエストの項担当)
8. 「ニュー・アメリカニズム——米文学思想史の物語学」(書評)
『アメリカ文学研究』No.33, 1997.
9. 「ヘミングウェイを横断する——テキストの変貌」(書評)
『アメリカ文学研究』No.37, 2001.
10. 「Temperance Narrativeの物語学」
『CHART NETWORK』No.35. 数研出版、2001. (pp. 1-4)
11. 「『アメリカの悲劇』の現在」(書評)
『英語青年』(研究社) Vol.148, No.3, 2002.
12. 『ミュージック・オブ・ハート』(大学英語教材)(共編著)
英宝社、2002.
13. 「英文学の教え方(Ⅱ) アンケート」
『英語青年』(研究社) Vol.48, No.9, 2002. (pp. 19, 33, 43)
14. *Big Dipper* (高等学校英語教科書Ⅰ) 代表著作者
数研出版、2006.
15. 木下他編『英語文学事典』(ミネルヴァ書房) 2007.
(アンダソン、ドス・パソス、ルイス、ミラー、ウエストの項担当)
16. *Big Dipper* (高等学校英語教科書Ⅱ) 代表著作者
数研出版、2008.
17. 『フォークナー事典』書評
『フォークナー』第10号(松柏社) 2008. 4.

18. “Sherwood Anderson” (article)

Encyclopedia of American Studies Online 2012. 6.

19. 『ヘミングウェイ大事典』(勉誠出版)、2012. 7.

(シャーウッド・アンダソン、書簡等の項目担当)

F. 研究発表(口頭)

1. 「紳士は金髪がお好き? —— デイジー・フェイの毛髪を巡る若干の考察」

日本アメリカ文学会関西支部例会、1981. 11.

2. 「Sherwood Andersonをめぐる」

日本英文学会第55回大会シンポジウム、1983. 5.

3. 「アメリカ小説のストレンジャーたち」

日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム、1985. 12.

4. “Sherwood Anderson and Being A Stranger” Sherwood Anderson After Fifty Years:
A Conference sponsored by the Sherwood Anderson Society and the Department
of English, Virginia Polytechnic Institute and State University. 1991. 4.

5. 「*In Our Time*の構造と主題」

大阪大学英文学会年次大会、1995. 11.

6. 「『酔いどれ』 アメリカ文学 —— アルコールと20年代作家」

日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム、1996. 12.

7. 「酔いどれアメリカ文学」

奈良女子大学英文学会講演、1998. 11.

8. 「自伝と伝記のなかのアメリカ南部」

日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム、1998. 12.

9. 「*Mosquitoes*の周辺 —— ニューオーリンズ時代のフォークナーとアンダソン」

関西フォークナー研究会冬季例会 研究発表、2002. 11.

10. 「髪は細部に宿る —— 「バーニス断髪にする」を読む」

日本スコット・フィッツジェラルド協会 全国大会シンポジウム、2004. 10.

11. 「メディアとしての禁酒小説」

日本アメリカ文学会第46回大会シンポジウム、2007. 10.

12. 「禁酒／感傷小説の物語学」

名古屋大学英文学会クリスマスセミナー講演、2007. 12.

13. 「アーネスト・ヘミングウェイを読む」

懐徳堂記念会古典講座（8回）2008.4～10.

14. 「飲酒／禁酒のアメリカ文学」

懐徳堂記念会古典講座（8回）2009.4～10.

15. 「多様と統一 —— アメリカ理解のキーワード」

武庫川女子大学秋季英文学会講演、2010. 11. 27.

16. 「口語文体からみたアメリカ文学」

奈良女子大学英文学会講演、2011. 11. 26.